

## お礼の言葉

大分市立大在中学校 校長 佐藤治行

受賞者を代表し一言お礼申し上げます。本日はこのような賞を頂き本当にありがとうございます。私は、この大分市教育実践記録に今回で3回目の応募になります。退職を前に、自分の38年間の教員生活を振り返り、記録に残したいという思いから今回の応募になりました。38年間継続してきたことは各種通信の発行です。その数は2000号を超えました。家庭・生徒向けの「学級通信・学年通信・進路だより・数学通信・学校だより」。同僚や教員向けには「学年通信・教務だより・研修部だより・教頭通信・校長通信」です。その内容は多岐にわたり、時宜に合った情報や担任（担当）の思いを提供していきました。書く材料に困ることはありませんでした。話題は身の回りにたくさんありましたが、常にアンテナを張り、日々生徒の頑張りや様子をしっかり見ておかなければなりません。世の中の動きにも敏感でなければなりません。また、これまで続けてこれたのは、折々の生徒や保護者の激励の声、同僚や職員の声・同僚の通信があったからです。未だに、私の通信を大切に持っているという話を聞くとうれしくなります。

今、インターネットやスマートフォンで情報を得ることが多くなりましたが、紙媒体の温かい通信を通して得られる生の情報は、インターネットから得られる情報とは違い生きています。本校の職員の中にも、定期的に通信を発行している先生がいます。忙しい中で時間を見つけては、生徒の頑張りや様子を家庭に知らせています。保護者の理解も進んでいるように思います。通信づくりに限らず、自分の実践を真摯に振り返りながら記録として残し、次に生かしていくことは教員として大切なことだと思います。「教師は常に学び続けなければならない」と言われます。今回若い先生方をはじめ、多くの先生方がレポートを提出しました。このように、私たちは、子どもたちのために、日々の実践を積み重ね、子どもたち以上に学び、成長し子供たちの前に立ちたいものです。今回、このように、38年間の振り返る機会を与えて頂き本当にありがとうございました。